

# SHIN CLUB 58

(株)辰 東京都渋谷区渋谷1-24-4 シンヤ百瀬ビル7F tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450 URL:http://www.esna.co.jp



2004年に竣工した主な弊社施工物件

## E & D チーム発足

新年あけましておめでとうございます。  
今年も皆様に建築にまつわるさまざまな情報を独自の切り口でお届けしてまいります。よろしくお祈りいたします。

まず、新しいお知らせがあります。新築工事同様、改修工事にも多数実績のある弊社ですが、このたび女性スタッフによる、リフォーム・チームを立ち上げました。これまでも改修工事のご要望は多々頂戴しておりましたが、少ない人員では、すべてのご依頼をお受けするには足りない状況でした。そこでリフォーム専門に女性スタッフを補充、お客様のご要望にきめ細かく対応していくことになりました。

新しいリフォームチームの名前は「E&Dチーム」。「Ecology & Design」の略です。

まずEcology、つまり「環境に配慮した」ものを目指すというコンセプトを持っています。一口に「環境」といっても、奥が深いもの。今「環境」とは、「人や地球に優しい」という意味合いを持って受け止められ、さまざまなキーワードを私たちに与えています。しかし人にとって「優しい＝気持ちのいい」という言葉は実はとてもあいまいなものです。例えば「シックハウス症候群」で問題になったアレルギー1つ取ってみても、原因は人それぞれです。ストレスは物質的なものばかりではありません。

大切なのは「お客様の要望が何か」を見極めること。私たちはきちんとお話を伺って、お客様の問題を一緒に解決する姿勢が何より大事だと考えます。お客様の求めるキーワードは何か―身体に優しい建材か、風の通りの良いレイアウトか、環境に負荷をかけない暮らしなのか、それによって本当に快適に暮らせる空間をご提供できればと願っています。

2つ目のDesign、これは単に機能面だけでなく、これまでの暮らしから一歩進んだ生活をデザインしてさしあげたい、という気持ちを込めています。壁・天井などの建材、家具や建具、そして設備に至るまで、お客様の暮らしをバージョンアップする、デザイン性の高いものをお届けしたいと考えます。お客様の毎日がより素敵なものになるように、1日のあり方そのものも演出できるようにお手伝いさせていただきます。

チームリーダーの谷貝真美は、ハウスメーカーで勤務後、このたび弊社に加入しました。谷貝に抱負を語ってもらいました。



谷貝真美  
インテリアコーディネーター  
キッチンスペシャリスト  
一級建築士

「私たち、E&Dチームでは、女性ならではのプランを提案、細かい配慮を含めた『辰』のオリジナリティ溢れるリフォーム提案をしていこうと思っています。

個人邸の改装はもとより、マンション・店舗・オフィスに至るまで、デザイン性・機能性を考えたご提案をさせて頂きたいです。工事の大小は問いません。また、コンバージョン(用途変更)による、ビルの再生なども手がけていきたいと考えています。

どうぞ、何なりとお申し付けください。」

もちろん、RC造のより大きな住宅や店舗の改修工事・増築工事には、新築工事同様、実績のある弊社工務部監理で現場主任を配置してお引き受けいたします。また建築家の先生をご紹介することも可能です。

家作りは、ご予算に合わせて、満足のいくものにしたもの。それには信頼のおける施工会社にお任せいただくのが一番です。建物は、建ててからが長いお付き合い。それはリフォームでも同じです。いつでも気楽にお声をおかけいただけるよう、スタッフ一同皆様のご依頼を心よりお待ちしております。

## E & Dチーム 5つのお約束

1. 担当者がプランから見積もり、施工監理まで責任管理いたします。
2. 契約後は、お客様をショールームなどにご案内し、納得のいく選定のお手伝いをさせていただきます。
3. 工事前後は、弊社にて近隣へのご挨拶をさせていただきます。
4. リフォームローンやお支払い方法をご相談させていただきます。
5. 引渡後、1年、2年目のアフターメンテナンスをさせていただきます。

## Ecology.....今のあなたには、どのキーワードが響きますか

たとえば・・・「便利に」

浴室 ユニットバス、多機能バス  
洗面所 シャンプードレッサー、  
ウォッシュレット  
台所 システムキッチン  
呼び鈴 テレビインターホン  
階段 エレベーター



たとえば・・・「快適に」

外断熱 結露・カビ発生防止  
健康冷暖房 輻射冷暖房PS、まきストーブ  
珪藻土・土壁 吸放湿性  
屋上緑化 外断熱効果、緑の癒し効果  
エクステリア ウッドデッキ、ガーデニング  
畳・床材 和の持つ癒し効果



たとえば・・・「安全に」

震災 耐震診断、免震補強  
防犯 セキュリティシステム  
有害物質 環境型接着剤、防腐剤  
介護 バリアフリー、手すり  
危険回避 落下防止、転倒防止



ドイツの健康塗料 リボス

たとえば・・・「有効に」

省エネ 燃料電池、ソーラーシステム  
省資源 リサイクル、国産材利用  
地下利用 地下室(面積緩和)、倉庫  
立体活用 賃貸住宅  
土地活用 等価交換、定期借地権



## Design.....今のあなたには、どのキーワードが響きますか

たとえば・・・「カーテン」



たとえば・・・「キッチン」



たとえば・・・「家具」



## 作品介绍/monthly architecture 09

### 広尾GH 改修工事

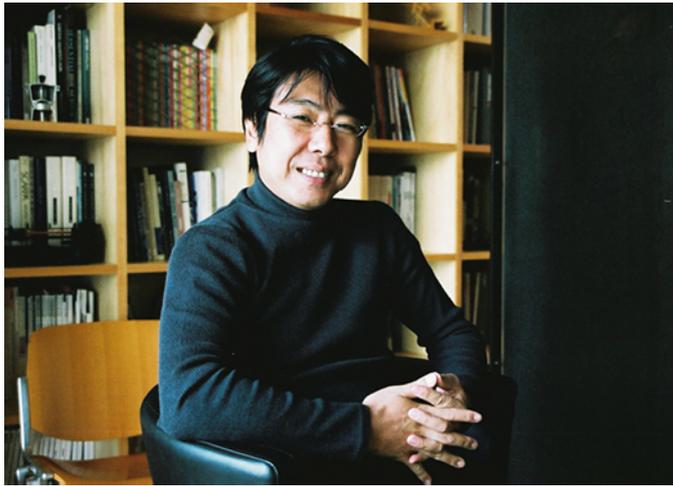


高級マンションとして、有名な「広尾ガーデンヒルズ」。その中で一部ゲストルームとして利用されている住居の改修工事をおこなった。

既存の家具、建具の利用を前提条件として、壁・天井のクロス張替え、窓のブラインド設置、照明の変更、一部造り付け家具の追加、の4ポイントに押さえた最小限かつ低予算な改造に絞った工事である。

天井高が全て2400で統一されている原設計の意図に答えて、天井から全ての照明器具を撤去し、替って小型のダウンライトを必要箇所だけに埋込み、フラットな天井を再現した。さらにブラインドボックス内部と造り付けのヘッドボードに仕込んだシームレス蛍光管による間接光で壁面を明るくすることで広がりを出した。

所在地: 東京都港区  
用途: 専用住宅  
改修設計: 桑原聡  
/ 桑原聡建築研究所



内海智行 profile

1963年 茨城県生まれ

英国王立芸術大学院修了後、筑波大学大学院修士課程修了  
大成建設設計本部勤務を経て

1998年 milligram studio 設立、同代表

主な作品

- 中野坂上の住宅
- 柿の木坂の住宅
- 旧大隈邸、弧状の増築
- Towered Flat
- Inner skin house

— 今月は、ミリグラムスタジオの内海智行氏です。  
弊社では、2001年「inner skin house」を施工させていただいており、現在渋谷区にSOHO住宅、品川区に共同住宅を施工中です。

— 「inner skin house」では、建て主のK様が時間をかけて、ご自身でどんどん内装に手を加えられていく過程が楽しみでした。内海さんは、そのような「作ること」にこだわりのあるお客様の住宅を、多く設計されているように見えます。

内海: 室内に関しては、Kさんのように、ご自身もデザイナーであるような強い主体性を持った建て主に限らず、ほとんどの人はきっかけさえ与えれば、それぞれが持っているイメージの可能性を広げていけるはずです。したがって、建築は、そのきっかけを継続的に与えられる器であればよいと思っています。仕上げと構造体を分離しやすい鉄骨造などは、器の有り様がオープンなのでインターフェイスがいいですね。室内のしつらえは住宅にとって大切な要素ですから、建築の計画とは、ある部分で切り離し、その人それぞれの感性をうまく引き出してあげるプロセスを提供できるように心がけています。

— コミュニケーションの力でですね。

内海: 住まいかたについて、私の方から従来のイメージを押し付けることは決してありません。ユーザーとそれに関わる人たちの生き方に適した形で空間がそこにある、そうした固有値となることが大切だと思っていますね。

— 大手施工会社の設計部出身でいらっしゃるようですが、現場の知識も豊富なではありませんか。

内海: 知識に関して他と比較することはできませんが、ただ、アトリエにありがちな新規性ゆえの設計図面の精度の問題などは、現場からすれば不信感以外のなにものでもないという自覚はあります(笑)。  
ゼネコンでは現場監督が会社上での立場が上ですから、設計の意志を貫くためにはいろいろと気を遣います。もちろん、そうした中で養われた知識もありますが、それは、技術的なことよりむしろ姿勢みたいなものかもしれません。でもそれは、現場との信頼関係がいい施工結果を生むという、あたりまえの事が、結局建て主の利益につながるということにつきると思います。

— 話はさかのぼりますが、内海さんはイギリスの芸術大学を出ていらっしゃいますね。弊社で今施工中のC-ONE新築工事の建て主、フランス人デザイナーのグエナエル・ニコラさんともそこで一緒だったそうですが、ニコラさんは今、日本のさまざまなデザインの分野で活躍されています。「au」のロゴとか、SANYOの液晶テレビとか、「SONY GINZA」、「ISSEI MIYAKE」などの多くの店舗のインテリア、その世界に境界がないので驚きました。

内海: そうですね。彼はプロダクトやインテリアデザイン等幅広い分野で活躍しています。僕自身は確かにそうした他業種のクリエイターとの交流が多い方だと思いますが、そうした他者の創造的な固有値を自らの建築の中で収斂することにあまり抵抗がありません。むしろ、そうしたコラボレーションから刺激されることの方が面白い。もちろん、人文や史学な過去の蓄積を尊重しつつ、建築として守るべきところ、主体性を持ち合わせてはい

ますが、いい意味で、新しい出会いが自分に新しい刺激を与えてくれると思っています。

— C-ONEについては、工事現場を定点撮影されたりするようですが、ニコラさんが内装を担当されるとのことですね。

内海: そうです。室内は完全に施主が主導し、我々がタッチしないところですよ(笑)。でも、もともと建築は周辺環境という絶対的に自分達が関与できないものの中に存在するので、このケースでは、さらに内部も自分関わらないものとして、その狭間としての外殻が建築としておもしろい(笑)。

今、働きながら住むSOHO系が増えて、「住宅」の概念は変わりつつあります。それらはかつてのように、家族という単位を一つ屋根の下に、明日の労働力を回復する場として機能することだけに主眼を置いた住環境ではありません。C-ONEも「住む」という機能を持ち合わせながらも、おそらくはまったく異質な空間になると思います。でもそれは、ニコラさんの「住む」という目的が、一般と極端に異なっているわけではなく、ユーザーの空間への価値観が社会生活そのものをそこにおいて、そこで生まれてくるものに注目しているのだから、それはそれで意味があると思います。

技術的な産物としての建築は日々進歩していると思います。しかし、いわゆる建設によって社会的な産物として付随してくる部分、つまり感性や文化の成熟は日進月歩とはいかないようです。ほんとにゆっくりなんです。時間がかかる。だから、わかりあえないことを嫌がらずに、いろいろな人に関わって理解を深めていきたいですね。

— どうもありがとうございました。

内海さんがC-ONEの地鎮祭で、「これからみんなで楽しく協働作業を始めていきましょう」とわれわれ施工会社にも現場の人にも挨拶されたのが印象的でした。「皆で作るのだ」という意識を一つにしようという心づかいが感じられました。「現場では英語が飛び交っていて困る」という辰の担当者の、愚痴とも自慢ともつかない一言も記しておきます。



「inner skin house」のリビングルーム。ガラス繊維とPVC平織りを組み合わせた膜材を内装材として採用、ジッパーでつなぎ合わせて斬新なインテリアを試みている。

# 「大工さんは宝物」

株式会社大山工務店  
専務取締役

大山一夫氏

今月は、木工事の大山工務店さんに登場いただきます。社長の大山常松氏は82歳、辰の見積もり依頼にはいつも快くご協力いただいております。弊社細山田工事部長とともに、息子さんの大山一夫専務取締役に話を伺いました。

一会社を設立してどのくらいになりますか。

大山: 父は、戦後大工として仕事をしており、その後工務店を経営するようになりましたが、株式会社にしたのは昭和63年。その年、私も入社しました。私はそれまでゼネコンで現場監督の仕事をしていましたので、木造住宅のことなど大工仕事を詳しくは知りませんでした。今でもうちの大工さん達にはいつも教えてもらっています。

細山田: そうですね、大工さんや左官屋さん、特に自分の技術に自信がある年配の職人さんは、気配りも行き届くし、現場のいろんな業種の職方の中でも私は好きですね。

大山: 私は短い時間で効率よく仕事をやりたいと考えています。基本的に仕事を長い時間しているのは嫌いな性格なんですよ(笑)。

私は「自社が利益を上げるためには、他社も利益が上がらなければ、それは難しい」と思っています。お互いが約束事を守っていければ、うまくゆくんですけれどね。

細山田: 造作大工工事は、躯体工事の完了後、内装工事のスタートの職種です。これをまとめることが内装工程の重要なポイントになります。大山さんは、工程の約束をきちんと守ってくれるの良い業者さんですね。

大山: うちの大工さんはみな同じ。ほんとにきちんとやるし真面目ですよ。全員が図面を読むことができます。私は大工さんが仕事をよくやってくれるので、食べさせてもらっているようなものです。ですから大工さんが仕事をやりやすいように段取りしようといつも思っています。そのようなわけで、辰の現場監督さんにはうるさいことを言って申し訳ありません(笑)。これからも皆で頑張りますので、よろしくお願いします。

一どうもありがとうございました。



事務所にて 大山一夫専務



螺旋階段の踏み板のモデルをベニヤで作成してきた大森さん。作業工程を大山専務と相談する。



現在辰で施工中のT邸にて。今日の作業の確認をする大山専務と大工の大森さん。



カーテンボックスを作成する大森さん。スペースを制限される現場では、十分な安全管理と手順が要求される。

## TOPICS/INFORMATION

### 大井町PJ新築工事 地鎮祭 1月5日 品川区

TPOの自社設計の第1号の物件です。オーナー住居も含んだ、野口氏こだわりの共同住宅です。

構造: RC造 地上3階  
用途: 共同住宅  
設計: 野口信彦/タカギ  
プランニングオフィス  
完成予定: 2005年7月



### N邸新築工事 地鎮祭 1月5日 品川区

住宅メーカーと同一金額でRC造(杭有)で、建築します。1階オーナー邸、2、3階各3戸、駐車場3台の共同住宅です。

構造: RC造 地上3階  
用途: 共同住宅  
設計: 辰一級建築士事務所  
完成予定: 2005年8月



## 新年にあたり

(株)辰 代表取締役社長 森村和男

明けましておめでとうございます。日頃、私共の情報誌「Shin Club」をご愛読頂き誠に有難う御座います。

お蔭様で本誌も58号を発行するに至りました。これも偏に皆様方のご支援、ご協力の賜物と感謝しております。

さて、昨年は予想に反して景気回復が進み、上場企業は軒並み業績回復に転じた年でした。しかし中小企業を取り巻く環境は依然厳しく、「一部の幸福・全体の不幸」的社會に進行しつつあり、混沌としている感否ません。イラク、北朝鮮問題も未だに解決出来ず、不安定な状態が続いております。今後の景気も、4月が分岐月ともいわれておりますが、もはや当然のことながら他力本願ではなく、自分の軸をしっかり持ち、自力で道を切り拓く以外ありません。

弊社は今年創業6年目を迎え、第2創期のスタートに当たります。私たちはこのような優勝劣敗の時代を千載一遇のチャンスと捉え、愚直に邁進し、お客様の身になって、その心に感動を与える事を目標にしております。

## 編集後記

・自然災害の恐ろしさを痛感した2004年でした。しかし、予測可能なさまざまな事態に対し、本来すべきことがまだまだきちんとなされていないことを目の当たりにした年でもありました。被災地の1日も早い復旧を願ってやみません。

(株)辰 通信 Vol.58 発行日 2005年1月10日 編集発行人 松村典子

